

ミーノース 兄弟の確執

2016年4月27日

太陽がおひつじ座を過ぎ、おうし座に入ってきました。おうし座はアゲーノールの娘エウローペーに恋したゼウスが、牡牛に身を変じて彼女をクレータ島まで載せていったときの姿だといいます。

エウローペーはゼウスとの間にミーノース、サルペードーン、ラダマンテュスを生みました¹。3人の子供を生んだエウローペーは、クレータ島を統治していたアステリオスに妻として迎えられます。後に兄弟はクレータ島の王権をめぐる争うのですが、その前にもちょっとしたいさかいがありました。

ミノースは、ミーレートスという美少年をめぐるサルペードーンと争ったといいます。アポロドーロス²ではミーレートスはアポローン神とクレオコスの娘アレイアとの間に生まれた子になっていますが、アントーニーヌス・リーベラーリス³ではミーノースの孫ということになっています。

ミーノースは、当然ミーレートスが自分の孫であるとは知りませんでした。というのも、ミーノースの娘アカカリスがアポローン神との間にミーレートを身ごもった時、父親を恐れて森の中に彼を捨てたからです。しかし神意によって狼たちがミーレートを乳を与え、そうしているうちに牛飼いたちが彼を見つけて育てたのです。

アポロドーロスが伝えるところを信じるならば、ミーレートスはサルペードーンに好意を寄せていました。そんなことがあったからでしょうか。アントーニーヌス・リーベラーリスの伝える物語では、ミーレートスはサルペードーンの忠告に従って、夜中に一人で小舟に乗ってクレータ島を離れます。こうして、イオーニアのカーリアー地方にたどり着き、ミーレートス市に名を与えた⁴とされています。

アポロドーロスではミーノースはミーレートをめぐるサルペードーンと戦いを起こし、勝利したことになります。だとすればこれは、ミーノースがサルペードーンに勝利した後のことなのかもしれません。

1 アポロドーロス, 「ギリシア神話」, 3.1.1

2 アポロドーロス, 「ギリシア神話」, 3.1.2

3 アントーニーヌス・リーベラーリス, 「メタモルフォーシス」, 30

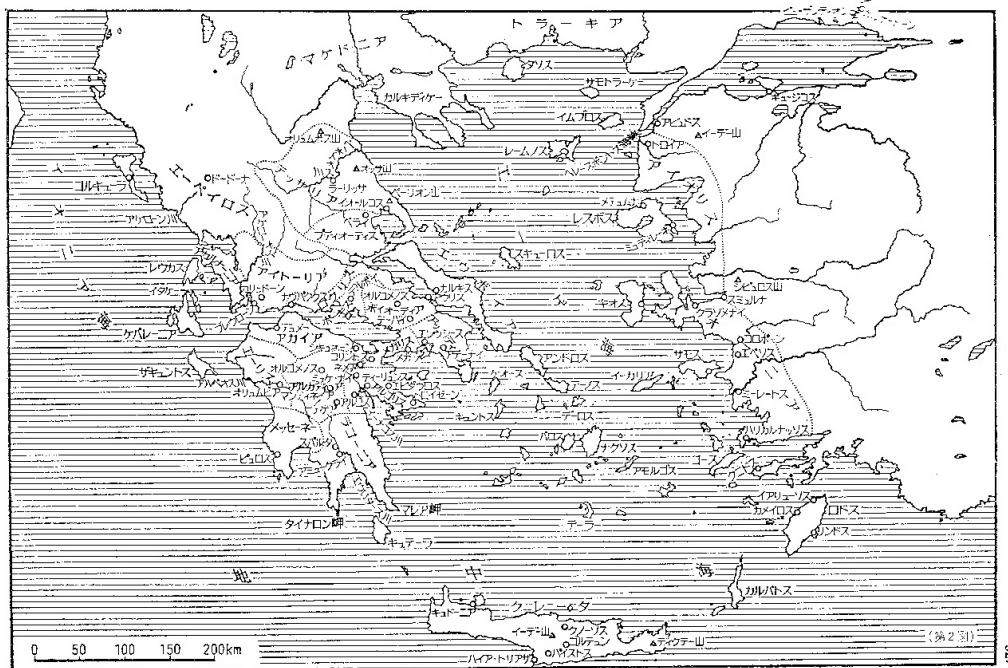
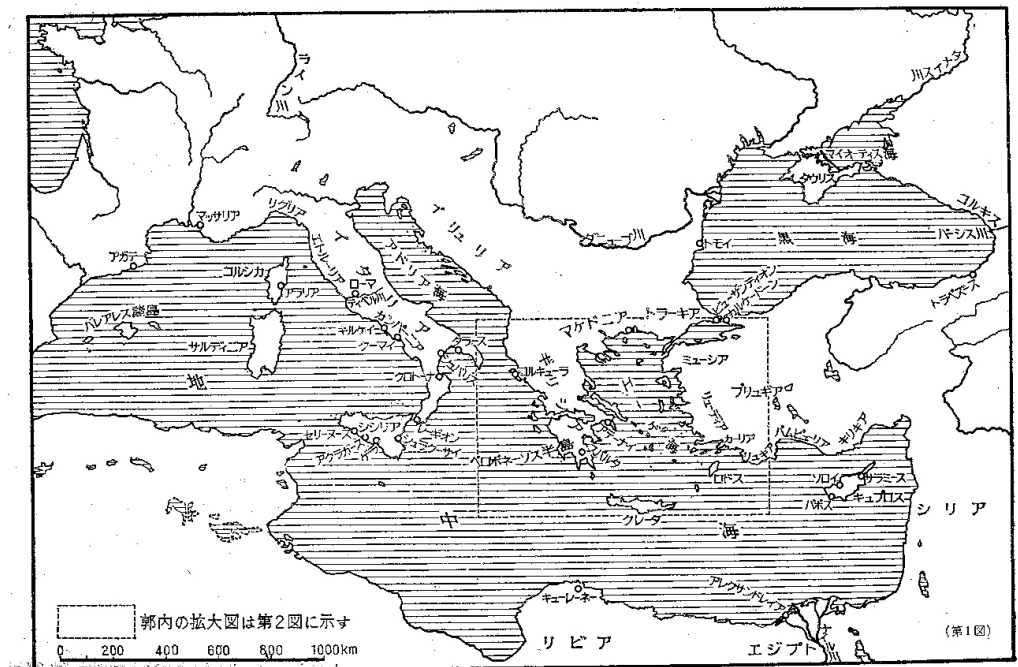
4 ビザンチンのステパノスによる地名一覧には、この物語は語られていません。しかしアポロドーロスは、同様の顛末を伝えています。

物語を振り返って

- ミノースは、なぜ肉親と争ってまでミーレートを求めたのでしょうか。
- サルペードーンと戦うことを決意したときのミノースは、どのような考えを持っていたのでしょうか。
- ご自身が、近しい人と争ってまで何かを得たいと思ったことはあった(または現在そうしている)のでしょうか。あるとすれば、それはどんなものなのでしょうか。
- そのような争いを円満に収めるには、どのようなリソースがあればよかった(または現在あればよい)のでしょうか。

ありがとうございました。神話の世界を身近に感じてもらえますように。

参考地図



アントニヌス・リーベラーリス 30

アポローン神とミーノース王の娘アカカリスとの間に、ミーレートスという名の男の子がクレータ島に生まれた。アカカリスは父ミーノースの怒りを恐れて、この子を森に捨てた。だがアポローンの神慮により、狼たちがやってきてこのミーレートスを守り、かわるがわる乳を与えていた。その後、たまたまそこを通りかかった牛飼いたちがその子を拾い上げ、彼らの家で育てることになった。

ミーレートスが成長して美しく活潑な少年となった時、ミーノースは情愛にかられて、暴力に訴えてでもその子を手に入れたと思った。そこでミーレートスはサルペードーンの忠告により、夜のうちに小舟に乗ってカーリヤー地方へと逃げた。そこで彼はミーレートス市を建設し、カーリヤー王エウリュトスの娘エイドテエーと結婚した。

以下略

安村典子 訳

アポロドーロス 3.1.2

エウローペーをクレータ人の支配者アステリオスが娶って、彼女の息子を育てた。しかし彼らは、成長すると、互いに争った。というのは、ミーレートスと呼ぶ少年を愛したからであって、彼はアポローンとクレオコスの娘アレイアの子であった。少年はサルペードーンに好意を寄せていたので、ミーノースは戦いを起こし、勝利を得た。そこで他の者は遁れ、ミーレートスはカーリヤーに上陸して、そこに自分の名を与えたミーレートス市を建設した。

以下略

(高津春繁 訳)

ビザンチンのステパノス ミーレートス市

ミーレートス、カーリヤーを臨むイオーニア人たちの都市。ヘカタイオスによれば、アシアーを臨む都市。ディデュモスはその著書 Symposiacos の中で、最初はレレクス人が住んでいたためにレレゲスと呼ばれていたとしている。ピテュウツサが松の木を持ってきて、ここに植えた。というのも、ミーレートスではテスモポリア祭で松の枝をベッドの下にデーメーテルの女神官たちが祖先を祀るために、松かさを向けて置いていた。その後、ガイアとウーラノスのアナクス(主人)であるアナクトリアーの名が呼ばれる。ミーレートスの市民はミーレーシオスと呼ばれる。

以下略